

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

北海道大学

前期日程

科目

生物

総括

試験時間	120分(2科目)	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	理学部一数学重点:140点(2科目)、 物化生地重点:必140点、他70点 理学部以外-150点(2科目)	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年度が実験ベースの問題だったのに対して、今年度は空所補充(11→共通問題だけで21)や知識を中心とする問題が多くなった。大問構成は生物Ⅰ、生物Ⅱからそれぞれ2題ずつであるが、遺伝計算と遺伝子が別の大問で出題されたため、出題範囲は広くない。記述字数は昨年度にひきつづき60字程度が中心で、やや書きにくい内容が多い。一方で、遺伝計算の出題があったものの計算量自体は多くないため、全体としては昨年度より若干難しくなった程度である。

〈特記事項・トピックス〉

- ・生物Ⅱ選択分野からの出題が、はじめて「生態系」と「進化」で選択問題として出題された。
- ・遺伝計算以外の計算問題は出題されなかった。描図問題が2年ぶりに出題された。
- ・記述問題は設問数自体は減少(9→8)し、すべての問題に字数制限がついた。
- ・空所補充問題に漢字表記の指定がある。

〈合格への学習対策〉

従来から北大の問題は教科書的な内容をベースに広く知識が問われるため、まずは教科書の内容をしっかりと理解する。近年は発展的内容の出題も少なくないため、特に医学部・獣医学部志望者は興味のあるテーマを深く理解する姿勢が大切である。過去問と共通したテーマの出題も続いており、過去問の検討も怠らないこと。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	I	刺激と反応 恒常性	・教科書的な知識問題で基本的である。	やや易
2	記述	I	被子植物の発生 胚乳形質の遺伝 条件遺伝	・空所補充は平易。 ・YやZの検討に時間がかかると思われるが、交配結果との関係がつかめればそれほど難しくない。	やや難
3	記述 描図	II	遺伝子発現のしくみ 酵素の性質	・問2の選択的スプライシングは発展的な内容であり、意義を説明するのは難しい。 ・問4の描図も翻訳の方向を考慮する必要があるが易しくない。	やや難
4 選択	記述	II	進化のしくみ	・教科書的なテーマが中心である。 ・Iは01年後期とほぼ同一内容の出題である。	標準
5 選択	記述	II	個体群動態	・I問2(1)と(2)は連動しているので、得失点差が大きくなりそうである。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。